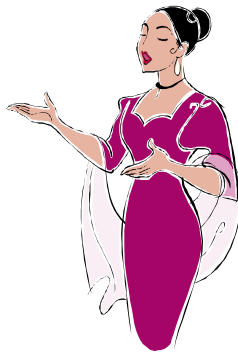


## 『導音ファ・シについて』

このたびの東日本大震災を期に、今後について真剣に考え、自分自身も行動を行さなければならないと思い、日々防災意識を啓発する活動をしています。さてその方法とは？住民の皆様方を耐震化に導くにはどうしたらよいのでしょうか？さらに建物の耐震化を進める為には？

先日、ある音楽家から大変興味深いお話を聞いたので皆様にご紹介いたします。（その音楽家の方が、老人福祉施設に慰問で歌を歌った時のことです。）あるプロ歌手も慰問に見えており、何曲か歌った後に、自分の持ち歌の十八番を熱唱したそうです。大変上手に歌う方でしたが、聞いていたご老人の方がもうやめろ！と怒り出したそうです。そのプロの歌手の方は、『なんだ私の歌の良さがわからないのか？』という顔をしていたそうです。会場はざわめき立ち、険悪な雰囲気になったので、その音楽家をご老人の皆様方が知っている童謡等をいっしょに歌って、その場を治めたそうです。



『綺麗な声で、名曲と言われる歌を歌っても、聞く方々がわからない歌、理解できない歌を歌うのは本当のプロではありません。相手を感動させるにはこちらを向けなければなりません。導く音ファとシですよ！』

音楽の好みは人それぞれであると思いますが、誰にでも心地よい良い音楽というものがあります。名曲と言われるゆえんの音楽であります。その名曲には、ある決められた一定の法則（技？）がうまく使われているそうです。



音には音階があり、音と音の間隔は均等でなく、音はそれぞれ役割をもっています。音を組み合わせると和音ができ、和音を組み合わせると音楽ができます。誰にでも綺麗に聞こえるような名曲には必ず一定の法則というものがあり、それは、心地良い、綺麗な音楽に導く為の音の法則というもので、和音の調べをうまく使って、主音と導音をうまく使い和音を形成しております、うまく導音

のファとシの音を使って音階を主音と半音ずらしいるのです。古来名曲と言われるクラシック音楽はもちろんのこと、本物のプロは、良い音楽と言われるものをただ聞かせるのではなく、綺麗な素晴らしい音楽に導く為に、技を使っています。ミを連想せる為のファとドを連想せる為のシ！ファとシが同時に奏でられると次に必ずド・ミ・ソの安定した美しいハーモニーになります。



コーラス・合唱やバイオリン等の音程を自由に調整できるものを使った音楽の場合。本当のプロになればなるほど、平均律とは微妙に違う音をうまく使って綺麗な響きを出しているのだそうです。本来、このような微妙な音程を作ろうとすると、どうしても、音律という概念とは馴染まないところがでてきてしまいます。全てのフレーズ・和音を綺麗な響きにするにはできず、どこを綺麗に響かせてどこで妥協をするか、という判断をして音を選んでいきます。そのため、本来は特定の音律に引っ張られて音を選んでしまうのではなく、耳で聞いて気持ちいい音を選ばなければいけないのです。このようにして選ばれた、綺麗な音は平均律で作られる音の上にはないことも多いのだそうです。綺麗な音を聞かせる為に、わざと音を半音ずらして聞かせたい音に導く、導音を如何にうまく使うかであるそうです。

武道でも、名人達人になると事前の攻めというか知らないうちに相手の間に入り、ゆっくりスッと攻め相手を仕留めるものです。早く強い動きや大きな声で威圧するのでもないのに知らないうちに取り込まれてしまう、名人達人は常人とは違うと考えがちですが、そうではなく、ちょっとした法則というか技を使っているということでしょうか？

なるほど・・・何かコツを伝授された感じです！

来たる、首都直下型大地震を恐れるばかりではなく、今後、如何にして楽しく暮らしていくべきか、次世代の子供たちが幸せになれるようにまちづくりのお手伝いをさせて頂く為にも、これからも住民参加の楽しく学べるイベントを多く企画し、住民市民の方々が興味を引くような活動をこれからもしていこうと思っておりますので皆様よろしくお願い致します。

(有)高廣建設一級建築士事務所雄設計工房  
管理建築士 一級建築士 高杉 雄一